



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第6号 平成22年8月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■特集 ～ 環境公共とおき水循環区の紹介① ～

前号でガイドブック「環境公共とおき水循環区マップ」を紹介しましたが、本号から、各水循環区の取組状況を順次お知らせします。今回は、^{ひらないまち たきのさわ}平内町の滝ノ沢地区です。

豊かな水を育む^{あおがき}青垣の山（平内町 滝ノ沢地区）

滝ノ沢地区は、平内町の中央部を流れる^{しみずがわ}清水川の水源林であり、町民に上水道や農業用水を安定的に供給する重要な役割を担っています。しかし、昭和30年代の経済成長に伴って木材の需要が急激に増加し、本地区でも大規模な伐採が行われました。その結果、森林の荒廃が一気に進み、森林の保水力の低下により、洪水や濁水の被害が度々発生しました。



青垣の山全景



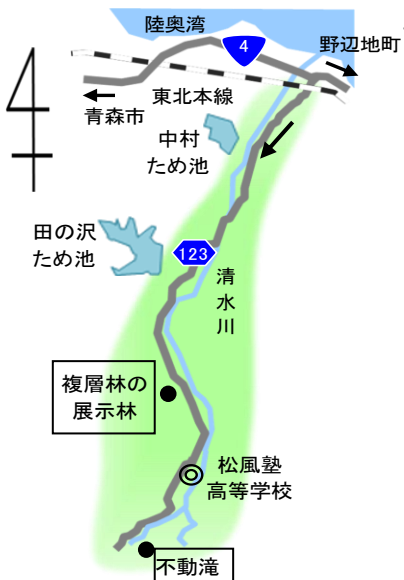
複層林の様子

（高い木：スギ、低い木：ヒバ）

このため、森林所有者や公団などが森林の機能回復を図る取組として、昭和40年代から植林を行っており、その手法として「^{ふくそうりんせぎょう}複層林施業」を取り入れています。これは、育てた木を少しずつ伐採し、新たな苗木をその場所に植えていくことで、枝や葉の高さが何層にもなる「複層林」を造成するものです。複層林では、雨水の地下浸透による保水力が確保され、土砂流出や洪水被害の防止機能が回復しました。

本地区では、現在は「^{あおがき}青垣の山」と呼ばれる緑豊かな水源林によみがえり、また林野庁から、森林再生や生活などに関し人との関わりの深い森林として「水源の森百選」に選ばれています。

滝ノ沢地区 探訪のポイント



1 複層林の展示林

複層林を間近に見ることができます。

（アクセス）

- ・国道4号線と県道123号の交差点（大きな看板有り）から車で約25分
- ・右手の広場と白い看板が目印です

2 ^{ふどうだき}不動滝

緑豊かな森林に育まれた水の流れを見ることができます。

（アクセス）

- ・複層林の展示林から車で約15分
- ・県道123号沿いにある左手の歩道に入ると正面に見えます



不動滝

■ 県内の「環境公共」の取組リポート

かみおくに そとがはま 上小国地区（東津軽郡外ヶ浜町）

外ヶ浜町の上小国地区では、ほ場整備事業の実施を契機に、農事組合法人「上小国ファーム」が設立され、地域営農企業化のモデルとして注目されています。

また、本地区では「環境公共」の取組として、農業者や町内会などが中心となった「地区環境公共推進協議会」を設立し、地区内にあるため池をビオトープ※として活用し、子供たちと一緒に水生生物の保全活動を行っていますので、その内容を紹介します。

※ ビオトープとは

「野生の動物がすむ場所」という意味のドイツ語で、様々な生き物がすめるような環境を整えた場所です。

○平成 20 年度

協議会が行った現地調査において、地区内に魚類や昆虫類が多く生息していることを確認しました。この結果を基に協議会で話し合いを行い、これらの生き物が生息する環境を保全するため、地区内にあるため池をビオトープとして整備することとしました。



現地調査の様子

○平成 21 年度

協議会では、ため池をビオトープとして整備するにあたり、ビオトープのデザインを考え、それを基に会員自らの手でため池の掘削や整形の作業を行いました。



整備したビオトープ

○平成 22 年度

協議会や地域の子供会により、地区内に生息する生き物を整備したビオトープに移動させるため、捕獲作業を行いました。

捕獲したドジョウやタニシ、ヤゴなどの生き物は、子供たちの観察会で協議会の方がその名前や種類などを紹介した後、ビオトープに放たれました。



生き物を捕獲し、移動させる子供たち

その他、協議会では、間伐材を用いて製作した橋をビオトープに設置しており、今後は、間伐材を用いたベンチの製作や設置、植樹などのビオトープ周辺の整備に取り組んでいくこととしています。